

大学と同窓会とのかかわり

国大化学会副会長 鈴木和也

昨年4月に3つの同窓会が統合し新同窓会「国大化学会」が発足し一周年を迎えようとしています。その間、第一回総会が成功裏に開催され、また樋口会長が実行委員長を務められた第二回横浜国立大学ホームカミングディでも多くの参加者が集まりました。新同窓会では新旧の同窓会の集結とともに、教員も正会員として参加することになりました。現在大学は、少子化による学生の減少、独立行政法人化による大学運営の効率化、外部資金獲得推進など、時代の変化とともに様々な自己改革が要請されています。このような状況において、同窓会と大学がどのように関係性を深めていくと良いのかという点について少し述べてみたいと思います。

大学と国大化学会とのかかわり

大学の研究室とその卒業生とは高い帰属意識から強い繋がりがあります。研究室はいつまでも続くものではありませんので、いずれその繋がりは大学から離れてしまいます。大学と卒業生を研究室単位で結ぶものが縦糸ならばそれらを横糸で束ねるものが現在の同窓会の役割でありましょう。一方、同窓会全体から見れば卒業生間の糸を紡いだとしても大学とは研究室を通して細い糸でしか繋がっておらず、別の強い糸が必要となります。その点で国大化学会には在学生在が参加し、あるいは現教員が参加するという点で新しい糸を大学と同窓会の間で結ぶことになったと思います。

では、この糸を強くたくし絆を深めるために大学と同窓会はどのようにかかわっていけるのでしょうか。

大学は第一に学問・研究の場として新しい知の創出をする場所です。高度な教育と研究により、まず何よりも学問において優れたレベルを保ち、同窓の方々にはいつまでも誇りに思っていただけのような組織であり続けることです（横浜国立大学は2007年Timesの世界大学ランキングに初めてランクインしました）。この学問・教育レベルを維持するため教員も日頃より努力を致しておりますが、同窓会には更なるご支援を賜りたく存じます。

学生支援として、国大化学会設立にあたり、剰余金を活用して「大学支援特別基金」を設立していただきました。この基金については運用方法を現在策定中ですが、具体的な運用により、学生と同窓会との認知度や絆、帰属意識がより深まるものと思われまふ。3月の役員会にて原案を作成し次年度早々の運用開始を目指しております。今後この基金が継続的に運用できるよう皆様方にも納得いただけるものにできればと思います。

また大学の使命は社会的な要請に応えることです。前述のようにしっかりと学問を修めた卒業生を社会に送り出す人材育成は一つの重要な社会貢献であります。一方、研究室で行われている研究には社会のニーズに応え、様々な産業創出に関する種がたくさんございます。既に多くの企業との共同研究（産学連携）は学会などのチャンネルを通して行われておりますが、同窓会には化学の分野で御活躍の方々が勢おられますので、同窓会を通じた、人事交流を含めた新しい産学連携のチャンネルができる可能性があります。そのためには同窓生の方々に教員・研究室の研究とシーズを良く知っていただければなりません。そのような機会が例えば同窓会誌、ホームカミングディでの研究紹介、シーズ探索のイベントの紹介などを通じて行っていければと思います。

若い人たちの同窓会への参加

同窓会とは卒業生の思い出を預かる場所、卒業生相互の懇親を深める場所、また、同窓会は卒業生と大学の間のコミュニケーションをつなぐ場所であり、卒業生が母校の発展に協力していく場所であることが理想的であると思います。しかしながら私自身、二十数年前卒業した出身大学の同窓会とはほとんどかかわることなく過ごしてきてしまいました。一方、所属した研究室のOBの間では今でも強いつながりがあります。それらの相違は、やはり同窓会のもととなる組織より研究室への帰属意識が非常に強いことによります。組織あるいは同級生間の帰属意識は、私より先輩の方々にはもっと強く、逆に今の若い方々にはさらに弱くなっているように思えます。

出身組織への帰属を意識できるようになったのは、やはり年齢を経て社会を自分の立場から眺められるようになってからであったように思います。いまでは卒業した組織に何らかの支援をしたいという気持ちは自然と起こるようになりました。ただ、その支援の方法や、支援したものがどのように生かされるかがいささか明確でないために、同窓会への参加自体すら躊躇されるのも事実です。若い卒業生の方には尚更この傾向が強いでしょう。具体化する「大学支援特別基金」を通して、卒業生が出身大学の後輩を支援する、という意識を持っていただくことが若い人たちの同窓会参加の第一歩ではないかと思ひます。

同窓会の皆様にはお願いばかりになってしまいますが、今後とも御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。